

日本感情心理学会第31回大会 大会発表賞 選考過程

学術プログラム委員会委員長 木村健太

日本感情心理学会第31回大会（2023年5月26日—28日）では65件の研究発表（口頭・ポスター発表）が行われました。そのうち、36件が大会発表賞の審査対象になることを希望し、日本感情心理学会優秀大会発表賞選考委員会による審査を行いました。

大会発表賞選考規程に基づき、学術プログラム委員会委員長を中心に日本感情心理学会優秀大会発表賞選考委員会を組織した上で、第一次審査と第二次審査に分けて選考を行いました。

第一次選考では、事前に提出された発表抄録に基づいて、10名の審査員が31歳以上と30歳以下の研究発表それぞれについて上位2つの研究発表へ投票し、最終候補演題を絞りました。

第二次選考では、最終候補演題に対して7名の審査員が可能な限り現地での発表を聞いて5つの軸（新規性、技術性等）で評価を行いました。

まず、一次選考は以下のような形になりました。

- ・31歳以上の発表賞へのエントリー数が21件。得票数が上位の3演題を二次選考対象として選定。その後、1演題が発表取消となったため、最終候補として2演題を選定。
- ・30歳以下の発表賞へのエントリー数が15件。得票数が上位および同列の5演題を二次選考対象として選定。
- ・合計7演題を二次選考の対象とした。

続く第二次選考では、7名の二次選考委員が可能な限り現地での発表を聞いた上で、以下の5つの評価軸に沿って、5段階による評価を行いました。

1. 新規性評価：研究の目的、結果や考察などに新規性や独創性があるか
2. 方法の評価：研究方法や分析方法に高い妥当性や信頼性、新規性があるか
3. 学術的・社会的貢献度の評価：研究で得られた知見が学術分野や実社会に貢献する意義があるものか
4. 発表力評価：研究発表をわかりやすく、魅力的に伝える工夫があるか
5. 総合性評価：全体としてみた場合、特に優れた研究であるか

7名の二次選考委員の評価に基づき、学術プログラム委員会を中心に、優秀発表賞（2件）、若手優秀発表賞（3件）を選定しました。

以上